

主な認証方法の比較

認証方法	セキュリティ	コスト	認証の簡便さ
携帯やトークンを用いた認証サービス(ソフトバンク・KDDI)	○	○	○
顔写真パスワード入力(二電子)	○	○	◎
生体認証(富士通・日立など)	◎	△	◎
英数字のパスワード入力	△	◎	◎

(注)米国家标准技術研究所(NIST)の「電子認証」のセキュリティレベルは、NRI(情報セキュリティセンター)の「電子認証」のセキュリティレベルを参考にしている。また、NRIの「電子認証」のセキュリティレベルは、NRIの「電子認証」のセキュリティレベルを参考にしている。

ATMでの預金引き出し、ウェブサイトで買い物の購入、本人確認の際、当たり前のように入力する四ケタのパスワード。この「鍵」の形が変わってきた。指紋などを使っ生体認証に加え、携帯電話を鍵に利用したり、覚えやすい思い出の写真を並べて本人確認したりするサービスもある。企業はニーズに合ったセキュリティ対策法を選ぶようになってきた。

本人認証の手法多様化

携帯は簡便 精度の生体



ソフトバンクのシンクロック画面(写真上)。KDDIは位置情報を使い機能の利用を制限する

コスト高でも「安心」買う

4ケタ数字打ち送信 GPS使用場所限定

企業は認証方法をどう選ぶべきか。セキュリティレベルが高い認証サービスは、目的や用途によって最適解が見つかる。守るべきデータの重要性に応じて手法の選択が必要だ。導入する企業のセキュリティレベル、コストと認証強度、一般利用者の利便性などそれぞれ異なる。長所・短所を見極め、効果的に組み合わせることで、個人が利用できる便利なサービスも始まった。

認する。ソフトバンク以外の携帯電話事業者の端末でも利用できる。料金は利用者千人の場合、一人につき初期費用二千円、月額約百二十円だ。ソフトバンクBはまず日本ヒューレット・パックスカード(HPP)と提携し、HPPの認証サービスに対応製品群にこの技術を使

組み込む。電子商取引(E-commerce)サイトで本人認証に活用する場合、自宅のパソコンやオンラインバンキング、周囲数百メートル以内での利用に限定でき、他者の不正アクセス防止に役立つ。携帯電話事業者は認証技術の普及に、一度の本人認証のポータル(玄関)サイトで複数のサイトなどにアクセスできる「認証プラットフォーム」サービスは、より幅広いサービスが利用できる。国内をかけたセキュリティを高めたい企業向けに、パスワードに工夫を凝らす認証サービスもある。認証ソフト開発のニモニックセキュリティを拡充する。

「大阪市の国米仁社長」が提供する「二電子」が提供する「二電子」多数の画像のなから鍵となる画像を選んで本人確認する。思い出の写真やイラストを登録できるので、数字よりも覚えやすいのが特徴。高齢者にも便利で、適用範囲が広い。池田銀行が大阪市の富裕層向けのプライベートバンキングサロンで利用しており、九月にはスマートフォン向けのサービスも始まった。



二電子は、英数字の代わりに思い出の写真やイラストを登録して認証する

ユニークで覚えやすく 思い出写真がパスワード

重要極め見所短・情報漏洩には注意

「セキュリティレベル」とコスト、認証の簡便さが主なる評価軸になり、目的や用途によって最適解が見つかる。守るべきデータの重要性に応じて手法の選択が必要だ。導入する企業のセキュリティレベル、コストと認証強度、一般利用者の利便性などそれぞれ異なる。長所・短所を見極め、効果的に組み合わせることで、個人が利用できる便利なサービスも始まった。

「鍵」の幅が広がる。認証精度ばかりが議論されるのは問題だ。本人自身「鍵」となる生体認証では「鍵」を変更できず、静脈などの情報が盗まれると、それはやばくない。ネットワークで「鍵」情報をやり取りする手法では、手元から離れた時点で漏洩(ろうえい)リスクが生じる。

(聞き手は細川幸太郎)